

日本画

進化し続ける日本画の世界。
古典を学び、現代における表現を探る。

日本画の表現は、
その長い歴史のなかで
大きく発展してきました。
基礎を丁寧に積み重ね
伝統技術を確実に習得しながら、
自らの表現を切り拓く道筋を探ります。



100年後に残る絵画を目指して

美しい岩絵の具、本質をとらえた表現…この国に伝わる日本画と呼ばれる独自の絵画表現は時代とともに幅を広げつつ進化を遂げてきました。しかしこの表現方法の習得には古来よりさまざまな「画派」の存在が示すように、やる気や根気とともに段階を踏まえた教育が必要でした。本学の日本画では緻密に計算されたカリキュラムで日本画技術の基礎から伝統的表現を経て未来に羽ばたく日本画表現を目指す人材をアシストします。

1年次

精密描写

野菜／草花／岩石／鳥／魚（鯉）／小動物／自画像

古典絵画模写

白描／着彩／臨模

その他実習

デザイン／彫刻I／工芸技法（紙）／郊外写生授業（～4年）

基礎描写

岩絵の具や膠など、日本画の画材の扱いは独特で非常に高度な技術を必要とします。ここでは静物や生物などを精密描写することで、日本画の基礎的技術やものの捉え方などを学びます。



古典

古典の名作を、その紙や絵具・筆使いの表情までを正確に写し取ることで古典絵画の技術を学びます。



その他の特色

少人数制による細かな指導

1学年15人に対して4人の専任教員が指導を行い、3年生からは10名以上の非常勤講師が加わり、学生独自の表現を追求していきます。



写生指導風景

2年次

古典基礎技術

絹本／運筆

その他実習

工芸／彫刻II

基礎表現技術

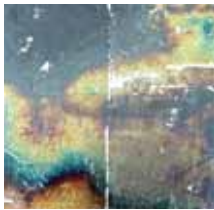
支持体制作／箔技法／裸婦デッサン（～4年）

課題制作

植物／人物／動物／風景

基礎表現技術

日本画制作を支える和紙の裏打ちや水張りやパネル制作などを学び、さらに金属箔や絵絹などの伝統的な技法を学び、自身の制作に活かしていきます。



伝統的基礎技術

写生、下図、草稿（大下図）、本紙制作という日本画独自の制作工程を繰り返し学びながら、日本画独自のものの見方や表現方法を学んでいきます。



講評会風景

学外活動

写生授業・研修旅行

毎年5月に全学年参加の写生旅行があります。行き先は白馬・上高地・戸隠など信州各地。日本画の基本である写生を通して学年間の交流や技術向上を図ります。また3年もしくは4年次に国内研修旅行を行い、見識を広めます。



郊外写生授業（信州）



郊外写生授業



研修旅行

3年次・4年次

自由課題制作

その他実習

コンピュータグラフィックス

発表制作

公募展、グループ展、個展等出品制作／各種発表／研修旅行（3年もしくは4年）／裸婦デッサン

卒業制作

自由課題制作

自由制作に移り、作品はかなり大型のものも手がけるようになります。伝統に基づいたもののみならず、現代に生きる感覚による作品制作も手がけます。技術的にも高度な表現に移ってゆきます。

各種発表

学内展示をはじめ、様々な場での発表を前提にした制作をすすめ、各種公募展などでの入選・受賞をはじめ個展やグループ展などの自発的な場での発表を通して研鑽を積んでゆきます。

卒業制作

4年間の集大成として、これまでの日本画制作で培った考えや技術で自身の世界観を表現します。



卒業後の進路・活躍

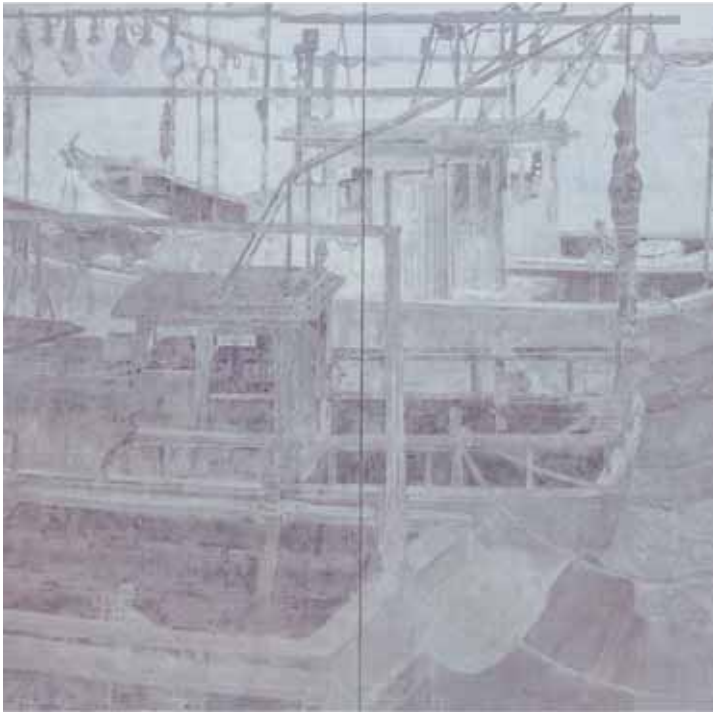
日本画家（日展・院展・創画会等各公募系列他）、大学教員（京都市立芸術大学、佐賀大学、名古屋芸術大学、東北芸術工科大学、京都精華大学、宝塚大学、大阪成蹊大学、崇城大学、金沢学院大学、金城大学短期大学部 他）全国 小中高教員 学芸員（石川県立美術館、福井県立美術館、名古屋市美術館、MOA美術館、石川県立歴史博物館）文化財保護修復関係機関各種 公立工芸研究機関（九谷焼技術、輪島漆芸 他）造形作家 工芸作家（陶芸、染色、漆芸）、漫画家、イラストレーター、各種デザイナー、映像関係、繊維関係、印刷関係、報道関係、会社経営、流通、販売系
[受賞・発表] 日展（会員賞、特選）、日春展（日春賞、奨励賞）、全関西美術展（全関西展賞 他）、臥龍桜日本画大賞展（大賞 他）、青垣日本画大賞展（大賞 他）、現代美術展（美術文化大賞 他）、文化庁在外派遣研修員、新風舎えほんコンテスト（優秀賞）、アフタヌーン四季賞（漫画）、院展（奨励賞）、春の院展（奨励賞）、東山魁夷記念日本画大賞展（大賞 他）、上野の森美術館大賞展（特別優秀賞）、三溪展（優秀賞）、京展（京都市長賞 他）、菅盾彦大賞展（大賞、準大賞）、碧い石見の芸術祭全国美術大学奨学日本画展（準大賞）



石引の春夏秋冬
藤田 怜子 H149.5×W205×D3cm



廻る
服部 秋花 H194×W130.3×D5cm



港
石野 駿平 H177.5×W177.5×D2cm



誰かの楽園
森 花 H181.8×W227.3×D3cm



地下道
小倉 太郎 H130.3×W194×D3cm



あき満ちて
新田 彩乃 H194×W259×D3cm